

探偵くんと鋭い山田さん オーディオドラマ②・シナリオ  
校内写生地獄変

午前中、校庭

雨恵 (大あくびして) ふあくあ……のどかだねえ。

雪音 (あきれて) あくびしてる場合じゃないでしょ。美術の授業中だよ。

雨恵 校内写生って言われてもねえ……こう、インスピレーションが降りてこないと、筆が進まないよ。

雪音 校庭の芝生に座って芸術家気取りしてないで、もっと真面目にやりなよ。

雨恵 あ、二年生の男子が野球してる！ 体育で野球するんだねー。

雪音 聞きなさいよ！

雨恵 バッター打った！ 強烈な打球はしかし、レフト正面！ 勢いよくワンバウンドして――あ……股間を直撃した。

雪音 うわあ……座り込んで悶えてるね。ツラそう……

雨恵 ああ、漫画とかでよく見るよね、めっちゃ痛いって。

雪音 護身術でも、痴漢に襲われたらまず金的を蹴り上げるのがセオリーだって、お母さん言うってたね。

雨恵 でもさー、実際どんくらい痛いんだろうね？

雪音 さあ……そればかりは女子には解らないよ。

雨恵 うーむ……絵を描くよりずっと気になるな。……お、ちょうどいいところに殿方が通りがかったぞ。おーい、戸村和ー。

和 ……なんだよ雨恵、フルネームで呼ばわるな。

雨恵 いやー、ちょっと聞きたいことがあってさ。

和 え？ でも俺、絵の描き方とかよく知らないぞ。

雨恵 ん？ なんで絵の話よ。

雪音 美術の時間だからでしょ……

雨恵 そうじゃなくてさー。男の人が金的攻撃を喰らったらどんな風に痛いのか、教えてよ。

和 なんだだ!? どっから出てきた話だよ！

雨恵 なんでもだよ。男子だけが知ってることがあるなんて……あれだ。男女平等が盛んに叫ばれる御時世的に……あれだ。絵を描くのタルいから、トークしようよ。

和 本音、雑だな……今は授業中なんだから無駄話してるヒマはないだろ。

雨恵 (不敵に) それはどうかなあ？ なにかを言葉で表すことを「描写」って言うでしょ？

「描き写す」と書いて「描写」。これは、あそこでうずくまってる上級生男子の気持ち言葉をスケッチをすること——つまり「校内写生」なんだよ。

和 相変わらず、勉強はできないのに屁理屈はフル回転だな……

雪音 無視していいですよ、戸村くん。

和 ああ、解ってる。どの道そんなの、女子へ解るように説明するなんて無理だよ。

雨恵 はあ？ そんな甘ったれたこと言ったら、宇宙人が来た時にどうすんの？ 「あなたたち宇宙人とは体の造りが違うから、なんにも説明できません」なんて、コミュニケーション門前払いしたら、あつと言う間に宇宙戦争が始まっちゃうよ。

和 宇宙人って……話が飛びすぎだろ。

雨恵 女にとっての男、男にとっての女は、今そこにいる宇宙人なんだよ。カラダが違えばコミュニケーションも違う。つまり宇宙に住む未知の知性体との遭遇だよ。

和 またそれらしいことを……

雪音 たしかにまあ、コミュニケーション能力は鍛えておくに越したことはないけど……

和 うあ、委員長は真面目すぎて丸め込まれてるし。……それでもやっぱり説明は無理だ。最

後に股間を打ったのなんて、もう何年も前だし、メチャクチャ痛かったことくらいしか覚えてないよ。

雨恵

(微笑んだ声で) そうかー、忘れちゃったかー……よっこい、しょ、っと。

和

な、なんだ？ おもむろに立ち上がって……

雨恵

(にっこりと) んーん。なんでもな…… (にわかには太い声) どりゃあっ!!

和

うわっ!? なんでもいきなり蹴ってくるんだよっ?

雨恵

ちッ……ハズしたか。

和

こ、こいつまさか……どんな風に痛いのか聞き出すためだけに、股間を蹴り上げる気か!?  
メチャクチャ痛かったって言うてるのに？ これがサイコパスってやつかよ……

雨恵

くっくくくっ……戸村くんも探偵なら探究心に身を捧げるがいいさ！ 喰らええええッ、  
キックキック！

和

いや探偵関係ない……くっ！ 無駄に鋭い蹴りを。でも、喰らうか！

雨恵

(きよとんと) あれっ……？

雪音

あ。わりとあっさり足をつかまれて……ひっくり返された。

雨恵

(悲鳴) ぎゃんッ!?

和

狙いが解ってるキックなんて当たるわけないだろ。

雨恵

いたた……思いつきり尻餅ついちゃった……!

雪音

ちよっと、だいじょうぶ雨？ 因果応報でまったく同情できないけど。

雨恵

うー……ちよっとダメかも。痛くて立てない。

和

(うろたえて) え？ そ、そんなに痛いかな？ ごめん……やりすぎたかも。

雨恵

うん。これはちよっと、保健室へ運んでもらわないとなー。

雪音

(疑わしげに) ちよっと、まさかサボりたいだけなんじゃ……

雨恵

違うってば。(ややわざとらしく) うう……尾てい骨がビリビリする。

和

はあっ……解ったよ。立てるか？

雨恵

無理、おんぶして。

和

マジで……？ あ、そうだ。行くにしても先生に言わないと。

雪音

その先生が見当たらないですし、とりあえず運んでしましましょう。

和

うーん、しかたないか……じゃあ、ほら。乗って。

雨恵

よっ、と。ほい、ちゃんとかまったよ。それ行けトムラ号。

和

(モノローグ) うわ、軽いなこいつ……脚もウソみたいに細いし。いや、落ち着け……動揺したら、またからかわれる。

雪音

雨……よく平気で男子にくつつけるね。

雨恵

ん？ ああ。でも、男子って言っても戸村くんだからなー。

和

(歩き出しながら、不満げに) なんだよそれ？

雨恵

えー？ (にやにやと) だって、なんかあんまりオトコ！ って感じしないしー。

和

はいはい……どうせ初心者向け男子だよ。

雨恵

……でも、こう背負われてみると案外がっしりしてるかも。

和

うあっ？ な、撫でるなよ。

雨恵

ごっごっしてて、なんたる……骨格が……広い？ 骨組みがしっかりしてて、ちよつと揺すっても全然平気。なんか生意気だなー。

和

こら、揺らすなっ。危ないだろ。

雨恵

指で押すと弾力が強くて、なんか硬い。二の腕とか、ふにふにしている雪と全然違って筋張ってる。

雪音

ぶにぶにとかしてないけど!? 女子だからどうしても皮下脂肪が厚めなだけで……

和

(照れくさそうに) 触るなつて! そもそも、なんで人の体を実況してるんだよ?

雨恵

美術の授業中だからね、「描写」してるんだよ。

和

美術の授業中だと覚えていたことが驚きだ……

雨恵

戸村くんは金的を打った痛みの描写をサボるからなー。不良だなー。

和

なにが悲しくて、美術の授業で股間を蹴られなくちゃいけないんだよ? それに、絵を描く時間に言葉を使ってもしょうがないだろ。

雪音

それは、そうとも限りません。エクフラシスと言って、古代の英雄の姿や美術品、建築物を言葉で描写した言語表現の分野が存在しますから。ホメロスが叙事詩の中で克明に描写した、アキレスの盾などが有名です。

和

うーん……山田妹が真面目で物知りすぎて、雨恵のテキトーな屁理屈にフォローが入っちゃってしまう……相変わらず、やりづらい双子だな。

雨恵

(調子に乗って) ほら見ろトムラ号。サボってないで……そうだなあ、ために雪ちゃんを描写してごらんよ。

和

ええ? じゃ、じゃあ……

雪音

(モノローグ) な、なんか男子に観察されるのって緊張する……

和

えっと……髪はショートで、今は二人分のスケッチブックと筆記用具を抱えてる。

(短い、間)

雪音

(にわかに不機嫌に) っ……それだけですか?

和

え? ダメ?

雨恵

それっぽっちゃ、モデルになってくれてる女の子に失礼じゃん。ほら、もっと言うことあるでしょ。性格と違って可愛い顔のこととか。

和

双子の妹の顔を可愛いって、ただの自慢じゃ……

雨恵 自慢じゃないよ。妹を立ててあげてるんだよ。お姉ちゃんだから。ほら、早く描写して。よっく観察してね。

和 わ、解ったよ。遠くの物を描くからか、今は眼鏡をかけてて……いつも外ではかけてないから、ちよつと新鮮だ。すっきりした顔立ちに合ってる、ヤボったい感じがなくていいと思う。(ふと気付いて) あ、眼鏡ちよつとズレてる。

雪音 ふえっ？ あ……じ、自分で直しますから。

和 あ、ごめん。山田さん、両手ふさがってたから。

雨恵 今のは雪じゃなくて眼鏡の感想だなあ。もつと具体的に言うんだよ。

和 ええ？ 難しいなあ。……じゃあ……薄い色の髪が日差しに溶け込んで、自分で光ってるみたいに奇麗だ。いつも姿勢がよくて、きっちり着込んだ制服が背筋に沿って……書道のお手本みたいに、品格？ のある線を浮かび上がらせている……

雨恵 (失笑) ぷふっ、なにその表現？ 品格って。

雪音 (顔を真っ赤にして) いえ、と言うか、あの……ほ、褒めすぎでは……？ わたしなんかに適当なレトリックではないです……

和 そうかな？ あとは、ええと……服がちよつとだぶついて見える姉とは逆に、制服の容量いっぱい満たしてる感じで、でもゴツいわけでもなくて……ああ、たしかに二の腕とか柔らかさそうかも。

雪音 (一瞬で冷めて) 股間蹴り上げていいですか？

和 えっ、なんで!?

雨恵 それがわかんないからダメなんだよ。

和 な、なんだよ……言われた通りに描写してただけなのに。

雪音 戸村くんには言葉の絵心がありません。ゼロです。

和 (小声で独白) 漫画家の姉を持つ身として地味に落ち込むな。口下手なのは認めるけど……(と、気付いて) ほら、下駄箱に着いたぞ。靴を脱いじゃってくれ。

雨恵 ああ、うん。雪ちゃん、脱がして〜。

雪音

しょうがないなあ……はい。雨の上履きも持ったよ。

雨恵

よし、保健室まであと一息だ。レッツ・ゴー。

和

はいはい……はあ、これでようやく解放される――

雪音

あつ！ 戸村くん危ない！

和

え……？ ぐふあつ!?

雪音

(声を震わせ) あ、ああつ……曲がり角から出てきた台車に乗っかっていたパネルの角が、ちょうど戸村くんの股間に直撃を……

雨恵

おお！ 描写だ！ 今こそ描写するんだトムラ号！ 金的の痛みを、宇宙的に伝わるように描き出すんだ！

和

ぐッ……う……ハア、ハア……脚がしびれて、骨の底が抜けたみたいで、立っているのどこまでも落ちていく……痛いつて感覚すらも、足の指先からどこか暗い場所へ吸い出されて、う……さッ、寒い……(がくっ、と意識を失う)

雪音

あー……冷や汗びっしょり。

雨恵

うーん……(てへっ)ごめん、よくわかんないや。

(校内写生地獄変了)